

成果の説明書

(氏名) 八木橋 慶一	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究活動</p> <p>研究成果としては、『地域政策研究』第20巻2号(高崎経済大学地域政策学会)に「社会的企業」の起源についての一考察——イギリスを事例として——(2)」を掲載した。</p> <p>また、高崎経済大学地域科学研究所の研究プロジェクト「空家特別措置法施行後の空家対策に関する総合的研究」の参加し、高崎市および関東圏で空き家問題に取り組む団体(おもに非営利団体)にヒアリング調査を行った。この調査の成果は、平成30年度に学会報告(日本地域政策学会第17回全国研究大会)およびプロジェクト成果物で公表する予定である。</p> <p>② 教育活動</p> <p>平成29年度は、前年度に引き続き「NPO論」(前期)、「社会起業論」(後期)、「コミュニティビジネス論」(後期)の3つの講義を担当した。講義では、理論や著名な事例を紹介するだけでなく、実務家をゲストスピーカーとして招聘し、それぞれの団体における具体的な活動を紹介してもらう機会を設けた。NPO論では1回、社会起業論とコミュニティビジネス論では各2回、高崎市内や関東圏で活躍するNPO法人や社会的企業の代表者に実務経験に基づく講演を行ってもらった。講演後は学生にレスポンスシートの提出を求めた。それらの内容から、学生が非営利組織やソーシャルビジネスの実態を深く理解できたことを確認した。</p> <p>またゼミ形式の科目として「初年次ゼミ」(前期)、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」を担当した。初年次ゼミでは、1年生に大学における学習の作法、口頭発表の技術などについて指導を行った。「演習Ⅰ」(3年ゼミ)では、次年度での卒業論文の作成に向けた準備として、専門文献の輪読、グループ別の調査を行ってもらい、論文執筆に必要な知識や情報を学生が習得したことを確認した。「演習Ⅱ」(4年ゼミ)では、卒業論文の指導を行った。全員一定水準以上の論文を提出することができた。</p> <p>そのほかには、「演習Ⅰ」への準備として、ゼミに決定した2年生を対象とするプレゼミを月2回の頻度で開催した。基本文献の輪読を行うことにより、学生は基礎知識を習得できた。</p> <p>③ 学内業務・社会活動など</p> <p>学内業務では、情報基盤センターの運営委員として、本学の情報関連業務に携わった。同じく、高崎経済大学地域科学研究所の研究委員長として、研究所の研究関連業務に携わった。研究所の連携公開講座にも出講し、「ソーシャルビジネスの理論と実践」のタイトルで講義を行った(6月17日)。また、昨年度はオープンキャンパスでの講義も担当した。講義名は「ソーシャルビジネスとは何? : 地域貢献×ビジネスの新しいかたち」であった(7月16日)。そのほか、ラジオ高崎の「高経ラジオゼミナール」に出演し専門分野について解説を行った(放送日10月20・27日)。高校への出前授業も一件担当し、愛知県立阿久比高校に出講した(11月9日)。講義名は「ソーシャルビジネス: 社会貢献×ビジネスの新しいかたち」であった。</p> <p>社会活動では、日本政策金融公庫高崎支店が中心となり、高崎商工会議所などと連携して発足させた「高崎ソーシャルビジネスサポートネットワーク」の顧問を引き続き務</p>	

めた。また、公益財団法人青雲塾の講演会講師を務め、ソーシャルビジネスについての講演を行った（9月21日）。

2 その他の事項

特になし。

3 次年度以降の計画・抱負

- ① 科研調査の成果をまとめ、公表する。
- ② 地域科学研究所の研究プロジェクトの調査の成果をまとめ、公表する。
- ③ 上記以外に継続して行っている研究の成果をまとめ、論文として発表する。
- ④ 卒業論文作成のために、演習Ⅰと演習Ⅱのそれぞれできめ細かい指導を行いたい。